

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の2年目)

1. 研究課題

東西知識交流と自国化—汎アジア科学文化論

Interaction and acculturation of knowledge between the East and the West:

A pan-Asian approach toward the history of science in Asia

2. 研究代表者氏名

武田時昌

TAKEDA Tokimasa

3. 研究期間

2017年04月 - 2020年03月 (2年度目)

4. 研究目的

自然探究の学問において、異郷からもたらされる典籍、文物や文化的情報は常に刺激的であり、時には大きなブレイクスルーを誘発した。中国において、インド、イスラム、ヨーロッパなどの西方世界からもたらされた科学技術は、理論的変革をもたらすほどに大きな作用を発揮した。また、中国的受容を経た科学や技術は、韓国、日本やベトナムに伝播し、それぞれに異なる自国化の道を辿った。近世日本では、新興の大陸文化を受容しながら、一方ではイエズス会宣教師やオランダから直接に科学知識を導入したことによって、ハイブリッドな独自の近世科学文化を開花させた。本研究プロジェクトでは、『宿曜経』などの仏教天文学の展開や明末清初の西学受容を考察対象に取り上げ、宇宙論、自然観、生命観の形成と変容過程を探ることで、東西知識交流と自国化の具体的様相を明らかにする。そして、汎アジア的な視座から伝統科学文化の構造的把握を試みる。

5. 本年度の研究実施状況

東アジア世界の科学文化を構造的に把握するために、異国間における科学知識の接触現象にスポットを当て、受容過程と自国化していく史的展開の諸様相について汎アジア的視点から多角的な考察を試みた。本年度は、『宿曜経』の会読を行い、日本に多く残存する中世、近世の写本を校合しながら密教占星術が中国、日本の天文暦学にどのような作用を発揮したのかを検討した。 未来創成学国際研究ユニット外国人教員として招聘した首都医科大学・副教授の張浄秋氏及び北京中医薬大学教授の梁永宣氏の協力を得て、中国から研究者10名を招聘し、6月15-17日に日中医学史セミナーを開催し、次世代を担う若手、中堅研究者の交流を促進し、国際共同研究の新たな基盤作りを行った。 また、12月には、北京大学外国語学院教授の陳明氏を招聘し、インド、中国、日本の中世から近世にかけての医薬文化交流をめぐる特別講演会を催すとともに、来年度に北京にて共催シンポジウムを行うための協議を行った。

6. 研究成果の概要

『宿曜経』に展開された密教占星術の理論的特色について構造的な把握を試み、仏典やインド文献に遡及的に考察するとともに、中国の天文占と比較することで、インド的な要素が色濃く残っていることを明確にし、インド起源の天文知識が仏教を媒介としてどのように中国化されたのかの具体的様相を明らかにした。また、中世に宿陽道として伝播し、江戸後期に円通を中心として唱えられるに至る仏教天文学の日本的展開を追跡し、明末清初以降にもたらされたヨーロッパ、イスラムの宇宙論との衝突、交錯によって、中国、日本に投げかけた波紋を多角的に考察した。 昨年度に開催した国際研究集会の参加者と共同研究班のメンバーに広く呼びかけ、白眉研究者の麥文彪氏とともに研究論文集の編纂を企画し、これまでの研究成果の報告書として欧文・和文を合冊した論文集を2019年2月に刊行した。

7. 本年度の研究実施内容

2018-05-14

宿曜経研究会

『宿曜経』巻上、序日宿直所生品第二 昴・畢・觜

発表者 白雲飛

2018-06-15

日中医学史セミナー2018 in Kyoto「伝統医療文化の問題圏」<セッション1 出土簡帛と医療文化><セッション2 近世養生学のベクトル>

新出土医史籍をめぐる二、三の考察

発表者 名和敏光 山梨県立大学・准教授

放馬灘簡《鐘律式占》疾病占卜的數術模型

発表者 程少軒 復旦大学・副研究員

出土秦漢医方中度量衡問題芻議

発表者 胡穎翀 上海市中医文献館・助理研究員

朱權『活人心』の朝鮮と日本における伝播 — 諸本の比較を通して —

発表者 劉青 京都大学人間環境学研究科・D2

江戸時代の養生書刊行とその普及

発表者 入口敦志 国文学研究資料館・教授

江戸時代の養生書刊行とその普及

コメンテーター 名和敏光 山梨県立大学・准教授

2018-06-16 日中医学史セミナー2018 in Kyoto「伝統医療文化の問題圏」<セッション3 医薬文献の新考察><セッション4 伝統科学文化の新アプローチ><セッション5 文化的伝統と医学教育>

富士川文庫の新出資料

発表者 成高雅 京都大学人間環境学研究科・D2

朝鮮《医方類聚》引用中国傷寒金匱類文献考

発表者 黄英華 北京中医薬大学図書館・助理研究員

《太平御覽》所載医薬文献整理研究—以《疾病部》為考察中心

発表者 孟永亮 内蒙古医科大学中医学院文史各家教研室・講師

滑寿医籍及其存世版本考辨

発表者 張淨秋 首都医科大学・副教授

《素問・玉版論要篇》的中医象数学初步研究

発表者 吳新明 広東省中医院名医工作室・助理研究員

陳蓋謨の『元音統韻』と『五車韻府』～科学と音韻のかかわり～

発表者 浦山あゆみ 大谷大学文学部・教授

伝統医療文化からみた美容鍼灸学

発表者 王財源 関西医療大学・教授

四国医療専門学校が所蔵するふたつの張子二体組銅人形について

発表者 松木宣嘉 四国医療専門学校・教員

日本諾貝爾生理学或医学獎獲得者の成因研究

発表者 付徳明 山西医科大学、副教授

民国初期中国的医学教育与日本

発表者 牛亜華 中国中医科学院中医薬信息研究所、古籍資源研究室、研究員

2018-06-17 日中医学史セミナー2018 in Kyoto「伝統医療文化の問題圏」<セッション6 伝統医療の現代>

満鉄遺跡与大連大学護理学院関係研究

発表者 鄭賢月 大連大学護理学院、副教授

日本漢方顆粒剤与中国医学

発表者 梁永宣 北京中医薬大学、兵庫医大中医薬孔子学院、教授

巡回診療的地縁政治学:対 20 世紀前半日本東蒙古巡回診療的考察

発表者 財吉拉胡 中山大学社会学与人類学学院人類学系、副研究員

2018-06-17 日中医学史セミナー2018 in Kyoto「伝統医療文化の問題圏」公開シンポジウム「アジアの中の日本古典籍—医学・理学・農学書を中心として—」

漢字圏医史の定量比較・人文地理学研究

発表者 真柳誠 茨城大学・名誉教授

薩摩、琉球博物學探論

発表者 高津孝 鹿児島大学・教授

「採薬記」から名所記へ—『本朝奇跡談』—を中心に

発表者 平野恵 台東区立中央図書館・専門員

都賀庭鐘の読本『通俗医王者婆伝』

発表者 福田安典 日本女子大学・教授

薩摩、琉球博物學探論／「採薬記」から名所記へ—『本朝奇跡談』—を中心に／都賀庭鐘の読本『通俗医王者婆伝』

コメンテーター 名和敏光 山梨県立大学・准教授

総合討論「中医学、漢方医学からエコヘルスを考える」

司会 武田時昌 京都大学人文科学研究所・教授

2018-06-23 宿曜経研究会『宿曜経』巻上、序日宿直所生品第二

参・井・鬼・柳

発表者 清水 浩子

2018-07-30 宿曜経研究会 『宿曜経』巻上、序日宿直所生品第二
星・張・翼

発表者 小林 博行

2018-09-17 宿曜経研究会 『宿曜経』巻上、序日宿直所生品第二
軫・角・亢・氏

発表者 白 雲飛

2018-10-22 宿曜経研究会 『宿曜経』巻上、序日宿直所生品第二
房・心・尾

発表者 小林 博行

2018-12-09

敦煌出土医書と古代アジア医学知識の異文化流伝

発表者 陳明 北京大学外国語学院南亜学系・教授

房中書窺見

発表者 永塚憲次 研医会図書館・研究員

外傷の漢方薬と鍼灸～自験例を中心に～

発表者 平地治美 和光治療院・漢方薬局、千葉大学医学部医学院和漢診療学講座・非常勤講師

2018-12-10 宿曜経研究会 『宿曜経』巻上、序日宿直所生品第二
箕・斗・牛

発表者 白 雲飛

2019-01-14 宿曜経研究会 『宿曜経』巻上、序日宿直所生品第二
女・虚・危

発表者 小林 博行

2019-03-10 東京ミーティング 2019.3

中国古代の惑星観

発表者 武田 時昌

古記録所見の勘文と『天地瑞祥志』佚文

発表者 名和 敏光 山梨県立大学

刑徳小遊小考一帛書『刑徳』乙編を中心に一

発表者 小倉 聖 早稲田大学

『靈台秘苑』の比較研究

発表者 高橋 あやの 関西大学

前漢今文経学について

発表者 伊藤 裕水 文学部

治療禁忌日について

発表者 島山 奈緒子

『活人心』にみえる道教思想について

発表者 劉 青 人間・環境学研究科

瀧川亀太郎手録『史記正義佚存』二巻の発見 - 京都大学人文科学研究所図書室への寄贈と中華書局での翻刻までの過程 -

発表者 小沢賢二 南京師範大学文學院

8. 共同研究会に関連した公表実績

【出版】武田時昌・麥文彪編『East-West Encounter in the Science of Heaven and Earth(邦題:天と地の科学)』(2019年2月刊、欧文12本、和文14本を合冊した論文集。520頁(本文500頁、序文他20頁)【公開研究ミーティング】2019年03月10日 東京ミーティング2019(大東文化大学 大東文化会館 K-404号室)

9. 研究班員

所内

武田 時昌、Bill Mak、高井 たかね、宮 紀子

学内

上田 真啓(文学研究科・非常勤講師)、伊藤 裕水(文学部・非常勤講師)、伊藤 令子(文学研究科・OD)、瞿 艶丹(文学研究科・博士後期課程)、成 高雅(人間・環境学研究科・博士後期課程)、趙 ウニル(文学研究科・O.D.)、劉 青(人間・環境学研究科・博士後期課程)

学外

高橋 あやの(関西大学)、宮島 一彦(中之島科学研究所・研究員、同志社大学・元教授)、清水 浩子(大正大学)、矢野 道雄(京都産業大学・名誉教授)、梅林 誠爾(熊本県立大学・名誉教授)、白 雲飛(大阪府立大学・客員研究員)、平岡 隆二(熊本県立大学・准教授)、岡田 正彦(天理大学・教授)、吉田 薫(東亜天文学会)、佐々木 聡(大阪府立大学・特別研究員)、福島 雅淳(神戸学院大学・博士後期課程)、名和 敏光(山梨県立大学)、古藤 友子(国際基督教大学)、宮崎 順子(関西大学・非常勤講師)、奈良場 勝(暁星高校・講師)、相川 佳予子(奈良女子大学・元教授)、安部 郁子((財)研医会・研究員、図書館長)、新井 晋司(同志社女子大学・非常勤講師)、家本 旬二(鍼灸師)、猪飼 祥夫(北里大学)、池内 早紀子(大阪府立大学・修士課程)、石井 行雄(北海道教育大学釧路校・准教授)、岩間 眞知子(日中茶文化研究家)、浦山 あゆみ(大谷大学)、大形 徹(大阪府立大学・教授)、王 財源(関西医療大学)、桐浴 眞智子(大阪医科大学附属病院・鍼灸師)、熊野 弘子(関西大学・非常勤講師)、古藤 友子(国際基督教大学)、小林 博行(中部大学准教授)、坂井 里奈(神戸学院大学・非常勤講師)、島山 奈緒子(関西医療大学・非常勤講師)、高田 宗平(大阪府立大学・客員研究員)、多田 伊織(大阪府立大学・客員研究員)、塚本 明日香(岐阜大学)、張 莉(大阪教育大学)、豊田 裕章(大阪府立豊中支援学校・教諭)、長野 仁(森ノ宮医療大学大学院・教授)、中吉 隆之(関西医療大学)、奈良上 眞(大阪医療技術学園専門学校・教員)、橋本 敬造(関西大学・名誉教授)、濱口 昭宏(医学統合研究会・代表)、早川 尚志(大阪大学)、林 みどり(関西医療大学・非常勤講師)、平地 治美(千葉大学・非常勤講師)、松岡 尚則(公益財団法人研医会・研究員)、三鬼 丈知(大谷大学)、光平 有希(国際日本文化研究センター・研究員)、横大路 綾子(大阪府立大学)、吉村 美香(愛知淑徳大学)、梁 永宣(兵庫医科大学)、渡

邊 真弓(関西医療大学・研究員)、Beatriz Puente-Ballesteros(マカオ大学・助教)

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者
所内	1	2 (1)	0	0	0	10 (5)	0	0	0
学内	1	7 (5)	4 (3)	6 (4)	1 (1)	11 (8)	2 (2)	1 (1)	1 (1)
国立大学	7	7 (5)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	11 (8)	2 (2)	1 (1)	1 (1)
公立大学	3	11 (7)	3 (2)	3 (2)	0	18 (9)	3 (2)	4 (3)	0
私立大学	14	25 (8)	4 (1)	5 (1)	3 (2)	48 (21)	5 (2)	8 (2)	4 (3)
大学共同利用機関法人	1	1 (0)	0	0	0	1 (0)	0	0	0
独立行政法人等公的研究機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0
民間機関	4	6 (2)	0	0	0	7 (2)	0	0	0
外国機関	16	16 (6)	15 (6)	0	0	44 (18)	43 (18)	0	0
その他	14	24 (11)	1 (1)	0	0	33 (16)	1 (1)	0	1
計	61	99 (45)	28 (14)	15 (8)	5 (4)	190 (94)	66 (36)	27 (18)	10 (8)

※()内には、女性数を記載

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

総論文数	43(42)
国際学術誌に掲載された論文数	25(25)

※()内には、拠点外の研究者による成果(内数)を記載

インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合

掲載雑誌	掲載 論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
茶山学	1	정약용의 주희 서법筮法 개량과 그의 의의-음양노소 불균등의 문제를 중심으로 (朱熹の筮法に対する丁若鏞の改良とその意義-陰陽老少不均等の問題を中心として)	金東鎮
中国出土資料の多角的研究	1	北京大学漢簡「堪輿」と馬王堆帛書『陰陽五行』甲篇「堪輿」の対比研究	名和敏光
“國際尚書學會”第五屆學術研討會會議論文集	1	日本藏魏三體石經殘碑簡介	名和敏光
第二屆東亞易學國際研討會會議論文集	1	『斷易天機』諸本簡介	名和敏光
先秦秦漢史公衆号 漢簡專号	1	馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《徙》《天地》《女發》《雜占之二》綴合校釋	名和敏光
楚文化與長江中游早期開發國際學術研討會會議論文集(下)	1	“皋”與“畢”	名和敏光
世界漢字學會第六屆年會議論文集	1	馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《雜占之六》、《築(二)》、《五行禁日》綴合校釋(修訂版)	名和敏光
出土文獻與中國經學、古史研究國際學術研討會會議論文集(上)	1	馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《堪輿》綴合校釋 上	名和敏光
湖北出土簡帛日書國際學術研討會會議論文集	1	馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《堪輿》綴合校釋 下	名和敏光
東方宗教	1	『抱朴子』所見呪語の遡及的考察	名和敏光
東アジア思想・文化の基層構造—術数と『天地瑞祥志』—	3	『後法興院記』所収勘文の佚文資料研究	名和敏光
人間・環境学	1	朱権『活人心』の朝鮮と日本における伝播 --諸本の比較を通して--	劉青
中国文字	1	關於“有朋自遠方來”原為“友朋自遠方來”之可能性	大形徹
形の文化研究	1	石垣島・タイ北部・ネパール・中国等の人々の手首にヒモを巻くことについての考察	大形徹・山里純一・佐々木聡・大野朋子
道教学刊	1	《千金翼方・禁經》与日本奈良二条大路呪符木簡	大形徹・山里純一

			佐々木聡・ 池内早紀 子・大野朋 子
漢字学研究	1	字説「口耳の口」	大形徹
天と地の科学	5	The Encounter and Crossover of Astronomical Knowledge from East and West in late Ming China	橋本敬造
藪内清著作集第3巻	1	解題	橋本敬造
和漢比較文学検討会論文集	1	日中における「蚕」の祭祀と供養につ いて	白雲飛
和漢比較文学会第12回海外特別 例会予稿集	1	『徒然草』第七段に見る「四十」をめぐ って	白雲飛
臨床鍼灸誌	1	『瘦病』に対する中医鍼灸治療——伝 統医学よりの考察	王財源
茶の湯文化学	1	陸羽の没年と交流を記す『隆興佛教編 年通論』皎然・道標・陸羽伝	岩間 眞知 子
第4届東亜文献与文学中的仏教 世界 国際学術検討会資料集	1	仏教と茶—中国と日本	岩間 眞知 子
『径山—日本茶道之源』国際学術 検討会論文滙編	1	『喫茶養生記』と禅	岩間 眞知 子
第15回国際茶文化研討会論文集	1	日本における『茶経』の受容について —陸羽の卒年と交流を記す資料ほか	岩間 眞知 子
日本健康学会誌	1	茶と養生	岩間 眞知 子
怪異学の地平	1	睡虎地秦簡『日書』詰篇にみる神・鬼・ 人—『日書』の担い手を探る—	大野裕司
日本語言文化研究	1	江戸時代の日選びマニュアル前田東 斎『諏吉便覧指南』について	大野裕司
竹子学報	1	宋以前竹類譜録の起源与多様化探析	久保輝幸
図書館雑誌	1	左圭『百川学海』版本流伝考	久保輝幸
自然弁証法通訊	1	日本対青蒿的引進及鑑定 —総観中 日本草学之青蒿与黄花蒿	久保輝幸
京都大学数理解析研究所 考究録 別冊 B69	1	東アジアの星図作図様式と水運儀象 台の原寸復元	宮島一彦
大阪市立科学館研究報告第27号	1	東アジアの古星図における距星の特 定	宮島一彦
中華書局 二十四史校訂研究叢	1	唐張守節史記正義佚存 上下冊	瀧川資言著

刊			/小沢賢二 録文/袁伝 璋校点
茶恵天下—第十五届茶文化研讨会论文集萃	1	従譜録研究看『茶経』的成書及其影響 (譜録研究からみる『茶経』の成書とその影響)	久保輝幸
2016年中文古籍整理与版本目錄 学国際学術研讨会論文集	1	日本宮内庁書陵部蔵本『百川学海』的 版本価値	久保輝幸
臨川書店(京大人文研東方学叢 書)	1	術数学の思考——交叉する科学と占 術	武田時昌

※拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す

12. 費目の30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由

なし

13. 次年度の研究実施計画

『宿曜経』の会読を続行し、読み終えた部分の訳注を作成する。そして、インド、中国、日本における占星術の理論的比較を試み、中国の術数学や日本の陰陽道との関連性を吟味することで、天文知識の伝播、交錯や世俗化の具体的様相を探る。東西の知識交流をめぐる討論集会を開催し、班員による研究発表を随時行い、研究成果を論文にまとめる。そして、両者を合わせた研究成果報告集の編集を年度内に行い、来夏をメドに出版する。企画イベントとして、8月23-25日に北京大学東方文学研究センター、ブリティッシュコロンビア大学仏教フォーラムとの共催で国際月術討論会を開催し(総合テーマ: 从中古到近代写本文化与跨文化交流、開催場所: 北京大学燕园大厦 423 办公室、代表: 陳明(北京大学教授)&武田時昌、日本側の参加予定者 20名)、これまでの研究成果を発表する場を設けるとともに、国際的な共同研究体制の確立を目指す。

14. 次年度の経費

国内旅費	研究会参加費	開催回数 18 回 国内出張旅費(延べ 15 人)	支出予定額(250,000 円)
海外旅費	招聘旅費	招待人数(延べ 3 人)	支出予定額(170,000 円)
謝金(講演謝金、研究協力謝金、その他の謝金)			支出予定額(80,000 円)
合計			500,000 円

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

最終年度の研究成果として、論文と訳注の研究成果報告集を編集し、来夏に刊行する。取り組んだ中心的な研究課題(仏教天文学、中国及び日本の占術書、東アジア医療文化論)などにおいて、中堅、若手研究者を中心とした読解ワークショップをそれぞれ組織し、研究成果や人的資源の発展的な継続、拡充を図り、人文研科学史研究会の新たな研究体制作りに取り組む。